

登山月報

平成26年度 全国山岳遭難対策協議会開催	… 1
平成26年度 遭難対策委員研修会兼総会を開催	… 4
平成26年度 指導委員総会および研修会報告	… 5
山岳4団体懇談会	… 6
toto 助成金交付式	… 6
第69回 Mountain World	… 7
【提言2】未組織登山者と言うなかれ	… 8
JMA、寄贈図書、編集後記	… 8

平成26年度 全国山岳遭難対策協議会開催される

平成26年度全国山岳遭難対策協議会が7月4日(金)に霞ヶ関の文部科学省講堂で開催され、例年通り、全国から警察、消防、山岳関係者等300名が参加した。

主催者を代表して文部科学省の森岡裕策スポーツ振興課長の挨拶のあと、日程に添って進められた。

報告1は、「平成25年度中における山岳遭難の概況」が警察庁の川井伸地域課長補佐より報告された。平成25年度の発生件数は2,172件(前年対比+184件)、遭難者数は2,713人(前年対比+248人)、死者・行方不明者320人(前年対比+36)と、いずれも昭和36年以降で最多となった。60歳以上の中高年者の発生状況は遭難者数で全体の46.4%、死者・不明者は63.8%と傾向通り高い比率で、様態別では 道迷い1,134人(41.8%)、滑落460人(17.0%)、転倒393人(14.5%)となっている。発生件数は増加しているが無事救出も1,390人(前年対比+106人)と増加している点が特徴である。

報告2は、「山岳事案への対策と関係機関との連携」と題して富山県知事政策局消防課富山県防災航空センターの若島豊紀防災航空隊副隊長、布上久典防災航空隊員が報告された。富山県はコンパクトな県で警察と防災ヘリの連携が良い。ヘリの運用上の危険と対策に



ついて詳しい報告がなされた。

講演1は、「槍ヶ岳における外国人登山者の現状」と題して槍ヶ岳山荘グループオーナーの穂苅康治氏が、外国人登山者の現状を中心に話された。北アルプスでは外国人登山者が増加しており、事故も増加しており時宜を得た話であった。遭難や事故につながる外国人の特徴はなるほどと思うことが多かった。

講演2は、「雪崩事故の実態と山岳利用者の特徴」と題して特定非営利活動法人日本雪崩ネットワークの出川あずさ理事長が報告された。雪崩事故の実態を映像や写真を駆使して報告され、雪崩の発生の瞬間の映像には参加者が思わず息を呑んでいた。雪崩安全セミナーや事故を減らす取り組みが話された。

会場では専門的なレスキュー用具のほかにもさまざまな登山用具や関連機器の展示も行われたが、マルチコプターや新しい位置情報探知機の展示があり、注目を集めていた。また、ヤマレコもはじめて展示に参加され、GPSやこれらの情報をいかに減遭難に活用していくかが登山界の課題であることを感じた。

最後に「山岳遭難事故防止のために」というアピールを採択し、神崎日山協会長の挨拶で閉会した。

(遭難対策委員長 西内 博)



平成26年度 全国山岳遭難対策協議会 提言「山岳遭難事故防止のために」

登山者は山岳遭難事故防止のために 次のことに取り組むこと

- 登山の第一歩は、目的とする山をよく理解することからはじまります。地図を基本にガイドブックや現地等から事前に山岳情報を調べること。
- 登山計画書を作成して、パーティー全員がその山をよく理解するとともに、体力と経験に応じた無理のない計画であるかよく検討する。
- 登山計画書を家族や職場に知らせ、また、登山口の登山届ポスト、地元の警察署等に提出すること。
- 単独登山はやめて仲間と登り、ツェルトや救急用品、非常食を必ず携行して、ゆとりある行動を心がけて、安全に登山を行うこと。
- 山の事故は自己責任であることをよく考えて、山岳保険には必ず加入すること。
- 危急時に確実に連絡を取れる手段を確保するために、無線機、携帯電話等の通信機器を持参して登山を行うこと。
- 登山に出発する前に目的とする山域の最新の気象情報を入手して、気象遭難を防ぐこと。
- 登山中は常にパーティー全員の体調や疲労に注意を払い、コースの状況・気象条件等に応じて下山するなどの冷静な判断を行い、山岳遭難事故を絶対に起こさない心構えで行動すること。

関係者は山岳遭難事故防止に向けて 次のことに努める

- 登山計画書の提出を奨励し、計画的で安全な登山の普及に努める。
- 登山道、道標、トイレなどの整備とその適切な管理に努める。
- 今後設置する道標及び案内標示の様式、表記方法等について、可能な限り統一に努める。
- 詳細な山岳情報と気象情報の提供に努める。
- 中高年登山者やツアー登山参加者の安全確保に努める。

岐阜県北アルプス地区における 山岳遭難の防止に関する条例

(目的)

第1条 この条例は、北アルプス地区における山岳遭難事故が多発し、登山者並びにその家族及び関係者に深い悲しみを与え、かつ、遭難した登山者の捜索救助活動に従事する者にとって多大な労力を要する

ものであることに鑑み、北アルプス地区の山岳に登山しようとする者に対し、登山の届出をさせることにより、登山者による事前準備の徹底及び山岳遭難の防止を図ることを目的とする。

(定義)

- 第2条 この条例において「北アルプス地区」とは、別表第1に掲げる地域をいう。
2. この条例において「登山者」とは、北アルプス地区の山岳に登山する者で次に掲げる者以外の者をいう。
- ①北アルプス地区において、遭難した者の捜索救助活動に従事する者
 - ②北アルプス地区内に所在する山小屋その他登山者が登山をしている間に休憩又は休息を行う施設の運営に従事する者
 - ③北アルプス地区内に所在する索道施設の管理運営業務に従事する者
 - ④前3号に掲げる者のほか、北アルプス地区において、公益性が高いと認められる事業又は業務で規則で定めるものに従事する者
3. この条例において「登山活動団体」とは、山岳への登山を目的に結成された団体その他の山岳遭難の防止に関する活動を行う団体で規則で定めるものをいう。

(県の責務)

- 第3条 この条例の目的を達成するため、北アルプス地区の山岳に関し注意すべき情報を登山者に提供することその他必要な措置を講ずるよう努めなければならない。
2. 県は、第5条第1項の規定による届出によって登山計画の内容を明らかにすることが、山岳遭難の防止に資するものであることについて、登山者に周知するよう努めなければならない。

(登山者の責務)

- 第4条 登山者は、登山は自己責任で実施するものであることを認識し、登山しようとする山岳の特性並びに自己の技能及び健康状態を十分に把握した上で綿密な登山計画を作成するとともに、当該計画に基づいた装備品等を携帯して登山しなければならない。
2. 登山者は、登山している間は、気象状況その他の環境及び体調の変化の把握に努めるとともに、当該環境及び体調の変化に応じて安全に行動するよう努めなければならない。
3. 登山者は、県が提供する登山に関する情報について、その内容を十分に理解した上で登山しなければ

ならない。

(登山の届出)

第5条 登山者は、登山しようとするときは、規則で定めるところにより、次の各号に掲げる事項を知事に届け出なければならない。この場合において、当該登山者が当該各号に掲げる事項を登山計画書、入山届その他の書面を提供することその他規則で定める方法により富山県若しくは長野県にある行政機関又は登山活動団体に届け出たときは、知事に届け出たものとみなす。

- ①登山者の住所、氏名、性別及び年齢
- ②登山の期間及び行程
- ③装備品、飲料水及び食糧の内容
- ④緊急時における連絡先
- ⑤無線等の通信手段の状況
- ⑥山岳への登山を目的に結成された団体等への加入の有無及び当該団体等の名称等
- ⑦山岳遭難者の捜索救助費用に充てるための保険への加入の有無及び当該保険の名称
- ⑧前各号に掲げるもののほか、規則で定める事項

2. 前項の場合において、複数の登山者により構成される集団が同一の行程で登山するときは、当該集団を構成する登山者のうち一人の者がこれを代表して届け出ることができる。

(事務の委託)

第6条 知事は、前条第1項の規定による届出(同上第2項の規定による届出を含む。)の受理、当該届出に係る事実の確認のための措置その他の当該届出に係る事務の一部を知事が指定する者に委託することができる。

(過料)

第7条 第5条第1項の規定による届出をせず、又は虚偽の届出をして北アルプス地区(4月16日から11月30日までの間にあっては、北アルプス地区のうち別表第2に掲げる区域)に登山した者は、5万

円以下の過料に処する。

(委任)

第8条 この条例の施行に関し必要な事項は、規則で定める。

(附則)

1. この条例は、平成26年12月1日から施行する。ただし、第7条の規定は、この条例の施行の日(以下「施行日」という。)以降の北アルプス地区における登山者の動向及び第5条第1項の規定による届出の状況を勘案した上で、施行日の翌日から起算して2年を超えない範囲内において規則で定める日から施行する。
2. この条例の施行の際現に北アルプス地区の山岳に登山している者については、この条例は、適用しない。

別表第1(第2条関係)

焼岳山頂を起点とし、同所から岐阜県と長野県との境界に沿って北東進し奥穂高岳山頂に至り、同所から当該境界に沿って北進し樺沢岳山頂に至り、同所から稜線を南西進し弓折岳山頂、大ノマ岳山頂及び抜戸岳山頂を通過して笠ヶ岳山頂に至り、同所から稜線を南進し雷鳥岩及びクリヤノ頭を通過して錫杖岳山頂に至り、同所から起点に至る線に囲まれた地域(中部山岳国立公園千石平園地のうち知事が定める区域を除く。)並びに樺沢岳山頂を起点とし、同所から当該境界に沿って北西進し双六岳山頂に至る線から50m以内の地域

別表第2(第7条関係)

1. 西穂高・奥穂高区域 西穂高岳山頂を起点とし、同所から岐阜県と長野県との境界に沿って北東進し奥穂高岳山頂に至る線から50m以内の区域
2. 滝谷区域 滝谷を中心とした地域で知事が定める区域
3. 穴毛谷区域 穴毛谷を中心とした地域で知事が定める区域

一人の男を救うために、世界10カ国の登山家が集結した。
“生きること”を感じる、感動のドキュメンタリー!

アンナプルナ南壁

7,400mの男たち

www.7400-movie.com

9月27日(土)

有楽町イトシア イトシアプラザ 4F
〒100-0043 東京都千代田区有楽町1-10-1
ヒューマントラストシネマ有楽町
03(6259)8608 www.ttcg.jp

登山ファン必見のロードショー!
シネ・リーブル梅田、名演小劇場、シネ・リーブル神戸ほか全国順次公開

そこに、まだ見ぬ世界があるから。

クライマー

パタゴニアの彼方へ

8.30(土)

全国ロードショー!

命綱と素手だけを頼りに、難攻不落の頂を目指す“若き天才”の挑戦を描いた感動ドキュメンタリー

平成26年度 遭難対策委員研修会兼総会を開催

遭難対策委員会の平成26年度の研修会と総会が神奈川県警山岳救助プロフェッショナルリーダーの協力で平成26年6月28日から29日にかけてあしがら勤労者いこいの村で開催された。28日は研修会で全体進行は石田常任委員が行った。最初に相田一己神奈川県警山岳救助プロフェッショナルリーダーより「丹沢山系の遭難の現状」の講演があった。西丹沢では登山者数もほぼ把握されており、震災で若干減少したが以降増加傾向が続いており14,000人弱で、事故者は30人前後である。神奈川県内の25年の事故は発生件数89件、115人である。内訳は死亡行方不明が10人、重軽傷50人、無傷55人である。態様別では道迷い51人、転・滑落24人、転倒19人、病気7人、その他14人となっている。実際の事故について実際の映像での紹介があったが、とにかく単独での事故、行方不明事故が多く、他の人に発見されたとか、救助隊が発見する例がとて多かった。また、丹沢は谷が多いためか人力での搬出も多いようで、救助隊の登山技術の高さに驚かされた。

講演後、4班に分かれ、「遭難を減らすための指導、教育のあり方」「道迷い遭難を防ぐためには」というテーマで議論した。日山協は山岳会での教育をベースに、指導者を育成して会の中でさらに教育するという形で指導、教育を行ってきた。先輩から登山の中で教えられるものも多かったが、一般登山者にはそういう山岳会や先輩がいないというところでの教育となる。時間が足りなかったが各班とも体験や情報の共有が行われていた。最後にオーセンティックジャパンの久我氏による新型位置探査機「ヒトココ」の紹介があった。集団登山の管理や、行方不明者の捜索に活用が期待される新製品である。

研修会終了後、懇親会が行われた。



相田神奈川県警山岳救助プロフェッショナルリーダー



岡本神奈川県連会長挨拶

総会は29日に行われ、石田常任委員が全体進行を行った。神崎日山協会長の挨拶で開会し、神奈川県連の岡本会長の挨拶を頂いた後、西内委員長から平成25年度事業報告、平成26年度事業計画の説明、日中韓登山技術交流研修会の説明があった。今年は日本の主管で群馬県の谷川岳で開催されるが見学者を募集している。引き続き青山副委員長から山岳事故調査報告が行われた。都岳連が抜けたがJROとして復帰することであった。日山協の事故が396人(89人増)、死者が17人(9人増)と急増している。アルパイン系の事故も多い。全国の事故も2713人と増加している。若者の事故も増加してきている。

町田副委員長から、昨年に引き続きロープ強度試験の報告があった。過去の試験を目的や結果で整理した内容でいったんまとめたものである。続いて西内委員長より登山部の改革について現状報告と方向性の説明があった。まず、登山部の目的を再確認することによって①安全登山の普及(教育の実施)②卓越登山の支援(登山技術の向上)③山岳環境の保全の3つをあげ、これを達成できる組織にしたいとのことである。

続いて広島岳連の新山さんから名越實氏の遭難事故の報告があった。捜索ではGPSを使いそのログデータで捜索範囲の確認を行うなどされており、行方不明の捜索には有効である。続いて渡部常任委員からGPSの活用による道迷いの防止についての解説があった。現段階ではGPSと地図の併用が有効とのことであるが、GPS遭難というものも起きているとのこと、その原因は地図データのルートの間違いや、ポイントの落とし間違い、雪の残る時期に夏道ルートを使ってしまったなどである。

引き続き青山副委員長よりUIAA登山委員会の報

告とIMSARの報告があった。UIAA報告ではUIAA STANDARDの普及状況や国際山岳事故調査が動き出したとの報告があった。IMSARの報告では2月に開催されたロープフォーラム、第三者事故調査法の進捗状況などが報告された。

最後に青山副委員長より、六甲山縦走における集団行動測定実験の報告があった。これは六甲山全山縦走の参加者40人にGPSを持たせ、どのような行動をしたか分析するもので、早い人と遅い人、リタイヤした人との行動の違いが鮮明であり、ルートの取り方で数キロの距離差もでている。また、何人かの人が同じところで迷っていることもわかった。

非常に盛り沢山のテーマで十分討議しきれなかつた部分もあるが、とても有意義な研修会、総会となった。残念なのは参加者が少し少なかったことである。開催

にご協力いただいた地元の神奈川県山岳連盟に感謝したい。

【総会出席者】 神崎忠男(会長)、八木原罔明(副会長)、西内博、町田幸男、青山千彰、永井伸幸、渡部逸郎、恵秀彦、松本善行、渡邊輝男、廣川健太郎、林満、中丸忠男、清水学、下越田功、服巻辰則、近藤孝久、大沼正博、森裕紀子、石田英行、一本松文夫(以上常任委員)、菊池眞一(岩手)、須賀邦雄(千葉)、中澤弘雄(山梨)、井春文(新潟)、村田健治(長野)、野村道博(石川)、増田利幸(福井)、堀内修(静岡)、高橋優(愛知)、廣瀬修二(岐阜)、竹村喜一郎(滋賀)、新山まゆみ(広島)、十河利雄(香川)、寺崎良夫(福岡)(以上委員)、岡本安夫(神奈川県連)、角田守、毛呂憲治(群馬岳連)
(遭難対策委員長 西内 博)

平成26年度 指導委員総会および研修会報告

6月7日(土)～8日(日)に指導委員総会及び研修会が東京晴海の東京海員会館で開催された。今回は38都道府県から41名の参加で、指導常任委員10名、日山協佐藤副会長含む52名の出席となった。

開会に先立ち佐藤副会長から「足元の悪い中お集まりいただきありがとうございます。公益社団法人として1年目は赤字決算となった。予算の制約があるので、限られた予算の中で、事業をしていただきたい。必要な事業に関しては、予算を補正したり、事業内容の見直しをしたい。2日間勉強していく中でご意見をいただきたい。」と挨拶された。

次いで瀧本指導委員長から「今回初めて参加された方もいる中で、制度等が変わってきています。安全登山、規約の改定、養成講習会に関わることもあります。スタンディング・アクセス・ビレー(SAB)も改善してきており、情報を共有して持ち帰っていただきたい。日体協担当者、指導委員長も代わると、分からないことも多く出てくる。盛りだくさんの内容ですが宜しくお願いします。」と挨拶。

【研修会】

*公認指導者更新登録に伴う義務研修について、最近決まった事。

○研修会の回数と内容について年度と内容を申請時につける。

○研修会の名前で、3時間以上の研修時間と内容が確認すれば、認めている。

○WEB申請のチェックを外していただかないと、い

ろんな団体から申し込みが来る可能性があるので注意が必要。

○過去に遡っての申請は、日体協で受付しない場合も今後は出てくるので注意。

○スポーツ指導者管理システムについて指導委員会のメールで送っていただくと指導常任委員代表3名にメールが入るので、常に確認、承認を実施している。以上の確認事項について報告があった。

*実技研修として、SABの完成形について堤常任委員から実際のデモンストレーションがあった。これについては以前、『登山月報』(542号)にも掲載したが、指導委員総会の場でも検証することになった。

【安全登山実践講座について】

*名称について、対象とする登山者層、未組織の登山者のレベルアップを目的とすること、制度設計、今後のスケジュール等について、瀧本委員長から報告があった。

創業45周年記念“特別企画”

**バリ島最高峰アグン山とバトゥール山2座登頂
と韓国の名峰・雪岳山(ソラクサン)登頂 8日間**

発着地 東京・大阪・名古屋・福岡 旅行代金

出発日 10/16(木) ￥286,000

※燃油サーチャージ(2014年5月30日現在:目安約23,000円)が別途必要です。
旅行企画・実施 観光庁長官登録旅行業第490号/日本旅行業協会正会員/JTF保証会員

ALPINE ツアーズ サービス 株式会社

〒105-0003 東京都港区西新橋2-8-11 第7東洋海事ビル4階 ☎03-3503-1911
大阪 ☎06-6444-3033 名古屋 ☎052-581-3211 福岡 ☎092-715-1557
e-mail: info@alpine-tour.com http://www.alpine-tour.com

まず、26年度は東京都岳連で先行実施することにし、近隣県からのお手伝い、見学の検討、作成したテキストの確認を行った。

ブロック別検討会での討議内容は以下の通りであった。

都道府県山岳連盟(協会)で行う時の問題点の洗い出し、および解決方法、制度に問題はないか(費用など)、ブロック単位の養成講習会の開催についても検討できないか。

各都道府県により、教え方が違う事も予想されるので、すり合わせが必要、PCでのパワーポイントがあれば便利、集客する場合、これまでの講習会との相違をどの様に説明して集客するか、また、方法・媒体について、講師については、指導員を活用。既に既存の講習会がある。今までも、初めは多かったが尻すぼみすることが多く、工夫することが必要。結果的に、どこかの山岳会に入ることに繋がればとの意見もあった。

閉会にあたり佐藤副会長から「皆さんの前向きな様子が窺えた。ブロック別でも是非、まとめていただき、



予算も検討していきたい。日体協の看板も借りることも検討したい。2日間通じて、有意義な機会を得たので、持ち帰り報告したいと思う。山の日の制定に当たり、議員も対応を検討中だが、故郷の山を子供のうちに登らせたい。底辺を広げていければと思います。」と挨拶があった。

最後に瀧本指導委員長が「今回は、少しはゆとりがあったのでは、時間的に有意義な機会になったと思います。来年もお会いしましょう。」と締めくくった。

(指導常任委員 野村善弥)

山岳4団体懇談会

本会と日本勤労者山岳連盟(労山)、日本山岳会(JAC)、日本山岳ガイド協会(JMGA)の山岳4団体の懇談会が7月16日に東京・市ヶ谷のレストランで行われた。16年目となった今年の幹事団体はJAC。懇談会に先立ち、JACの森会長が幹事団体としての挨拶を行い、次いでJMGAの谷垣会長が、「山の日」制定に纏わる挨拶をされた。続いて労山の浦添理事長が平和と登山、東北の山の放射能線量調査について述べられた。其の後、神崎会長の挨拶と乾杯の発声で、乾杯し、懇談と意見交換に移った。

懇談会では、以下の報告や提案がなされた。

1. 国民の祝日「山の日」の施行に向けた全国協議会の国民運動とプレ・イベントについて
2. 山岳観光の振興と施設等の整備について
3. 新種登山者への啓発・教育と取込みについて
4. 150MHz帯の電波を用いた登山者等の位置検知システムに関する調査検討会について
5. 山と自然ネットワーク「コンパス」によるオンライン入下山届システムについて
6. アジア山岳連盟の創立20周年記念総会、日中韓技術交流研修会、IFSCKライミングWC印西2014等の国際交流について

懇談会は、和やかなうちに進み、最後にJACの節田副会長の締めの挨拶でお開きとなった。

(出席者) 日本勤労者山岳連盟：浦添嘉徳理事長、高橋友也副理事長、花村哲也副理事長、藤元理津子副理事長、川嶋高志事務局長、日本山岳会：森武昭会長、節田重節副会長、黒川恵副会長、古野淳副会長、佐藤守常務理事、高原三平常務理事、成川隆顕評議員、日本山岳ガイド協会：谷垣禎一会長、降旗義道副会長、今井通子副会長、磯野剛太理事長、日本山岳協会：神崎忠男会長、八木原罔明副会長、佐藤旺副会長、尾形好雄専務理事



toto 助成金交付式

サッカーくじ(愛称toto)を運営する(独)日本スポーツ振興センター(JSC)は、7月16日、東京・渋谷のセルリアンタワー東急ホテルにて「toto助成金交付式」を行った。平成26年度は競技団体、地方自治体、選手に約177億円を助成する予定。そのうち本協会に関わるスポーツ団体へのスポーツ活動助成は約30億円。交付式には卓球女子の福原愛(25歳・ANA)、体操男子の内村航平(25歳・コナミ)、白井健三(17歳・神奈川・岸根高)らが出席し、toto助成への感謝や今後の抱負を述べ、認定証を受け取った。

速報 カラコルム2014夏

池田常道

前号で話題にした「嫌われた？パキスタン」ではあるが、バルトロ氷河の8000m峰に関しては例外らしい。K2(8611m)もブロード・ピーク(8051m)も昨年を上回る登山者を迎え、7月下旬に多数が登頂した。

1954年イタリア隊の初登頂から60周年を迎えたK2では、それを記念するパキスタン＝イタリア隊を初めとして16隊以上が殺到、7月26日に32人以上が登頂に成功、27日にも成功があいついだ。好天に恵まれて28日以降も攻撃が継続されたが、一部を除いてその後の登頂者は確認されていない。

26日に登頂したのはパキスタン＝イタリア隊の8人(無酸素)、エイドリアン・ヘイズ(英)、ジュゼッペ・ボンピーリのイタリア隊3人、クリス・ジェンセン・バーク(豪、女性)とラクパ・シェルパ、チェコのラデック・ヤロシュとヤン・トラヴニチュク、スペインのフェラン・ラトーレ(無酸素)、ネパール・シェルパニ隊のダフ・ヤンズム、パサン・ラム、マヤなど。ヤロシュはこれで8000m峰14座を達成した。

27日にはギャレット・マディソン(米)ら3人とそのシェルパ3人、フィンランドのサムリ・マンジッカ(無酸素)、イランのレザ・シャーレとマケドニアのズドラヴコ・デヤノヴィッチらが頂上に立った。

なお、26日に無酸素で攻撃したミゲル・アンヘル・ペレス(スペイン)は頂上直下300mで断念。いったんC4に帰って休養したあと28日に酸素を使って再度攻撃、頂上には立ったもののボトルネック上部でビバークとなり、29日にC4まで帰ったあと、翌朝テントのなかで死んでいるのが発見された。28日にはこのほかクレオ・ワイトリヒ(米、女性)とそのシェルパ、ギリシャのアレクサンドロス・アラヴィディス他1人などが攻撃したが、成否のほどは確認されていない。

一昨年9月号で、K2のエヴェレスト化が懸念されていることを話題にしたが、今回の大量登頂はあくまで異例の好条件に恵まれた結果であることは指摘しておきたい。なお、ボトルネックのルート工作は60周年隊のパキスタン・メンバーと他隊のシェルパが協力して行ない、後続する各隊に道を拓いたことは言うまでもない。

ブロード・ピークは、もっぱらK2や他のピークへの高所順応として利用する隊が多く、頂上に立ったのは7月23日～24日にかけての30人未満にとどまった。中央峰を目指したポーランド隊は24日に頂上直下100mで断念、別のメンバー3人が主峰に登った。

スペイン・バスクのアルベルト・イニユラテギ、ファン・バレホ、ミケル・サバルサのトリオは、昨年失敗したパイコ(6610m)南壁に挑み、3400mのBCから往復10日間で南壁の頭(6050m)まで登ったが、そこから頂上までの稜線は落氷の激しいセラックに護られており、最高点まで行くことは諦めた。8000m14座登頂者であるイニユラテギはこのトリオで、2009年マカルーのアルパインスタイルを初めとしてエヴェレスト北壁、ブロード・ピーク縦走、グリーンランド、南極点、ヌプツェなどに挑戦、今年はチョー・オユーとジャーヌーの新ルートを狙っている。

カラコルムの新疆側シャクスガム渓谷では、アギール山脈のダルバン・カンリⅡ峰(6898m)を目指していたスロヴェニア隊が遭難した。一行のうちアレシュ・ホルツとペーテル・メジナルが頂上を攻撃したが、7月5日を最後に消息を絶ち、15日の下山予定日を過ぎても帰還しなかったもの。ヘリによる捜索が行われたものの2人の痕跡は見つからず、悪天候もあって25日に打ち切られた。アギール山脈は30座以上の6000m級をもつ。1899年ヤングハズバンドのアギール峠越え、1914年H・ウッド(インド測量局)のシャクスガム峠越えなど初期の探検のあと、1926年のメイスン、35年フィッサー夫妻、37年シプトンらによって測量されたが、登山対象としては手つかずだった。



アブルツィ稜肩のC4からK2頂上を扼するボトルネックを望む。

【提言】その2 未組織登山者と言うなかれ

大阪府山岳連盟理事長 飛田 典男

日山協と係わりなく登山をグループ若しくは個人で楽しんでいる人達のことを漠然と「未組織登山者」と言ってきた。この呼称は非常に差別的ではなからうか。寧ろ「一般登山者」が適当だと考える。山を楽しむ大多数の人達がこの一般登山者である実態を知らながら効果的な手を差し伸べられていないのが現況である。と、断じてしまえば、反論もあろう。一般登山者向けの様々なイベントや啓発活動を実施してきているのだから。しかし、発信しているチャンネルが内向き過ぎるのである。これでは広く一般登山者には届かない。また、一般登山者の立場に立った発想も乏しい、加えて日山協自体の社会的な認知度にも問題があると感じている。どの様に日山協が世間一般に理解されているかをマーケティングしてみる必要がある。これには費用が掛かるだろうが、実態をより正確に把握する為には必要な費えである。勿論、お金を使わずに存在感を示す宣伝方法があっても然るべきである。マスコミで流される山のニュースは遭難事故か観光情報が大半である。これらの報道の中で、遭難事故などについて日山協がコメントを求められる場面はあっても主体となって参画するには至っていない。

最近は、にっぽん百名山（NHK）、大人の山歩き（T

V朝日）、絶景百名山（BSフジ）、日本の名峰（BS-TBS）、世界の名峰グレイトサミット（NHK）等々山を紹介する番組も豊富に流されている。それにもかかわらず日山協の影がこれらの番組に見えてこないのである。コマーシャルベースには馴染まない、では済まされない問題である。資金の潤沢なマスコミに消極的な協力姿勢ではなく、積極的に働き掛けを行う広報活動を展開することで、見えてくるものがあるのではないだろうか。それには企画を売り込むぐらいの能動的なアクションが求められる。大阪府岳連でもTV局の取材協力を行ってきているがボランティア要請や連盟の宣伝を理由に無償協力は一切受けないこととしている。協力要請があれば内容を把握して様々な提案を出し、受動的な対応は行わないようにしてきている。

内弁慶ではなく外に向けて営業活動を展開する広報能力が今こそ日山協に必要なのである。現状の組織ではこれらの活動が難しいのであればアウトソーシングの利用も検討すべきである。日山協の認知度を高め、多くの登山者に名前を知ってもらい、利用していただけるコンテンツを提供することが求められているのである。

前回でも触れたように本論は皆さんのご批判を頂戴しながら、多くのアイデアを抽出できることを願っている。



平成26年度7月（26年7月）
常務理事会報告

日時 平成26年7月10日(日)
17時30分～21時
場所 岸記念体育会館103会議室
出席者 神崎会長、八木原・國松・
佐藤副会長、尾形専務理事、小野
寺、西内、仙石、森下、京才、水島、
瀧本、青木各常務理事、中島監事(理
事13名、監事1名出席)

1. 議事

- (1)平成26年度6月常務理事会議事録の承認について(承認)
- (2)平成26年度雪崩災害防止功労者の推薦について(雪崩ネットワークを推薦することで承認)
- (3)後援名義等使用承認基準について(承認)
- (4)新規山岳共済会事業「ヒトココ」のレンタルサービスについて(承認)
- (5)山岳競技施設認定規則の施行日について(承認)

- (6)世界選手権大会(ボルダリング、ミュンヘン)派遣選手について(承認)
- (7)平成26年度少年少女登山教室実施申請の承認について(承認)
- (8)平成26年度山岳共済会事業実施申請の承認について(承認)
- (9)報告
ア 会計月次
イ 平成26年度専門委員会常任委員(案)について
ウ IFSCクライミングWC印西2014について
エ UAAA20周年記念総会/広島山岳平和祭について
オ 平成26年度中高年安全登山指導者養成講習会について
カ 日中韓技術交流研修会について
キ 「日本トレイルランニング会議」結成集会について
ク スポーツ拠点づくり自立促進事業

(JOCジュニアオリンピックカップ)について

- ケ JOCジュニアオリンピックカップ大会の年齢不正出場の処分について
- コ 平成26年度自然公園指導員局長表彰の被表彰者の決定について
- サ インターハイ登山大会役員視察について
- シ 内閣府公益認定等委員会への報告経緯について
- ス 選手登録の現況報告について
- セ 平成26年度山岳レスキュー講習会(東部地区)開催について
- ソ 国際大会におけるパーソナルコーチ、トレーナーの登録について

2. 役員等の派遣について

- (1)九州ブロック大会 7月19日(土)～20日(日) 於：熊本市 神崎会長
- (2)沖縄県岳連打合せ 7月21日(月)～22日(火) 於：沖縄 神崎会長
- (3)広島山岳平和祭打合せ 7月23日(水) 於：広島 神崎会長、尾形専務理事、京才常務理事

- (4)山岳団体自然環境連絡会 7月31日(木) 於: 労山事務所 神崎会長、石倉委員長、徳永副委員長
- (5)「日本トレイルランニング会議」結成集会 8月2日(土) 於: 岸記念体育会館 八木原・佐藤副会長、水島・仙石常務理事
- (6)第17回JOCジュニアオリンピックカップ 8月2日(土)~4日(月) 於: 南砺市桜が池CC 神崎会長、森下常務理事、山本・北山各委員長
- (7)全国ルートセッター研修会 8月5日(火)~7日(木) 於: 南砺市桜が池CC 森下常務理事、山本委員長
- (8)第58回全国高等学校登山大会視察 8月6日(水)~8日(金) 於: 神奈川県・箱根 國松副会長、小野寺・京オ・水島・瀧本常務理事、中島監事
- (9)第58回全国高等学校登山大会 8月7日(水)~12日(火) 於: 神奈川県・箱根 神崎会長、森下・青木常務理事
- (10)ジュニア登山教室 in 立山2014 8月17日(日)~20日(水) 於: 国立立山青少年自然の家 神崎会長、本木顧問、西内・仙石・青木常務理事
- (11)IFSCクライミングWC印西2014実行委員会 8月20日(水) 於: 印西市松山下公園総合体育館 尾形専務理事、森下常務理事、北山委員長
- (12)世界選手権(ボルダリング) 8月21日(木)~23日(土) 於: ドイツ・ミュンヘン 千葉和浩監督他選手7名
- (13)国体運営員養成特別研修会 8月24日(日) 於: 岩手県盛岡市 滝内常任委員
- (14)地域防災力充実強化大会 8月29日(金) 於: 東京国際フォーラム 尾形専務理事
- (15)鹿兒島国体正規視察 9月2日(火) 於: 鹿兒島南さつま市 京オ常務理事、西原委員長
- (16)日中韓技術交流研修会 9月4日(木)~10日(水) 於: 群馬県・谷川岳 神崎会長、八木原副会長、小野寺・西内常務理事
- (17)長崎国体組合せ抽選会 9月7日(日) 於: 岸記念体育会館 尾形専務理事、森下・京オ常務理事、西原委員長

3. 専門委員会動静

6月常務理事会以降
(6月13日~7月9日)

[報告]

- (1)自然保護委員会

- 6月12日(木) 出席者15名
ア 5月常任委員会議事録確認
イ 山岳団体自然環境連絡会(5/23)報告
・アジア山岳自然保護会議の運営について
・トレランに関わる環境省ガイドラインの作成動向について
・AACサステナブルサミットについて
ウ 「自然保護指導員の手引き」の出版について
エ 常任委員研修会の進捗状況について
オ 第38回自然保護委員総会について
・11/22~24の泊3日の日程を検討
・6/18(水)「広島山岳平和祭」打合せの出席者
カ 第39回自然保護委員総会の開催候補地(福島)について
キ 自然保護委員会アンケート集約について
ク 自然保護指導員育成出前講座について
ケ 第3回関東地区自然保護交流会の進捗状況について
コ 「入域料」の議員立法化について
サ 登山部の統合について

(2)競技部合同委員会

- 6月19日(木) 出席者15名
ア 平成26年度定時総会報告
イ 平成26年理事会(第2回)報告
ウ 6月常務理事会報告
エ 審判・セッターの国際資格取得「ア

- ジアコンチネンタルコース」受講者派遣について
オ WC印西大会準備進捗報告
カ 第28回リード・ジャパンカップ大会報告
キ 第17回ジュニアオリンピックカップ大会準備進捗報告
ク 指導委・競技部合同委員会(4/21)報告
ケ 選手強化委員会報告
・2014年リード日本代表選手の決定について
コ 技術(審判)委員会報告
サ 競技運営委員会報告
・長崎運営員養成特別研修会報告(古林講師派遣)
シ 日体協競技運営部報告
ス 国体後催催の準備状況
・岩手(H28):運営員養成特別研修会開催(8/24)
・鹿兒島(H32):正規視察(9/2、京オ、西原派遣)

(3)選手強化委員会

- 6月24日(火) 出席者8名
ア リード日本代表選手について
イ 世界ユース代表選手2次選考
・L-JCを受けて追加選手
男子: 清水裕登(ジュニア)、野村真一郎(ユースA)、中上太斗(ユースB)
女子: 廣重幸紀(ジュニア)、義村萌(ユースA)、錦織美里(ユースA)

寄贈図書

寄贈本	山と渓谷社 (公財)安藤スポーツ・食文化振興財団	「日本の森100」(一財)日本森林インストラクター協会 編著 「はじめてのキャンピング」中村昌之 構成/長谷川哲 解説 山と渓谷社
雑誌	東京新聞 山と渓谷社 横浜山岳会 兵庫県山岳連盟 (一財)日本万歩クラブ (公財)健康・体力づくり事業財団 中華民国山岳協會 (一財)日本環境衛生センター (公財)日本体育協会 (公財)全日本ボウリング協会 La rivista del Club Alpino Italiano (公財)全国高等学校体育連盟 (公社)日本武術太極拳連盟 三峰山岳会 中国登山協會 大阪府山岳連盟 高校生新聞社 神奈川県山岳連盟 日本勤労者山岳連盟 FEEC NPO日本オリンピックズ協会 Koreann Alpine Federation (一社)日本スポーツプレス協会 日本山岳写真協会 おいらく山岳会	「岳人」No.806 2014.8 「山と渓谷」No.952 2014.8 月刊「山」985号 2014年7月 「兵庫山岳」第565号 「帰れ自然へアルク」2014 8・9 「健康づくり」No.435 「中華山岳」241 「生活と環境」No.699 2014.7 「体協スポーツニュース・フェアプレイニュース」2014年6月30日号 「JBC news」第512号 「Montagne360」luglio2014 「全国高体連ジャーナル」vol27 「武術太極拳」No.297 「岩つばめ」80周年記念号 「山野 中国戶外」2017.7 191期 「山岳おおさか」No.201 高校生新聞第218号 高校生スポーツ日刊スポーツ2014インターハイ特集号 「ときわ木」No.165号 2014夏 「登山時報」No.474 「VERTEX」254 「OAJ NEWS」Vol.30 2014 「大山聯」2014 July Vol.187 「エクストリームプレス」Vol.12 「日本山岳写真協会ニュース」第413号 山行手帖No.656 14・8月

- ウ 世界選手権(ボルダリング)選手選考
・野口啓代、小田桃花、野中生萌、杉本怜、山内誠
- ・ラヴァルで新たな決勝進出者が出た場合、堀創、藤井快、植崎智亜の中から世界ランキングで決定。
- エ 世界選手権(リード)選手選考
・女子：小田桃花、野口啓代、田嶋あいか、大田理姿、小林由佳
- ・男子：安間佐千、島谷尚季、松島暁人、是永敬一郎
- オ 世界選手権及び世界ユースの選手強化費について
- カ アジア大学選手権大会へのユニフォーム提供について
- (4)ジュニア・普及委員会
7月3日(木) 出席者4名
- ア ジュニア登山教室in立山の現地打合せ報告
- イ ジュニア登山教室in立山について
・応募状況(7/3現在39名)、参加スタッフ(15名)
- ・役務分担と準備について
- (5)指導委員会
7月7日(月) 出席者13名
- ア 6月常任委員会議事録確認
- イ 6月常務理事会・連絡部会報告
- ウ 委員総会の『登山月報』原稿提出について
- エ ロープ試験について
・7/12～13、国立登山研修所、蛭田、瀬藤
- オ 登攀技術研修会(岡山)について
- カ 指導者養成講習会実施申請について
・大分(6/15、SC指導員)、茨城(7/1、AC指導員)、北海道(7/4、SC指導員)、静岡(6/23、AC指導員)、鳥取(6/4、AC指導員)、岐阜(6/25、AC指導員)、徳島(5/29、AC指導員)
- キ 指導・競技合同会議について
- ク 常任委員研修会(8/23～24)の参加者とテーマについて
- ケ 平成26年度指導常任委員名簿について
- コ 登山部統合準備委員会打合せについて

- (6)国際委員会
7月8日(火) 出席者13名
- ア 6月連絡部会報告
- イ 「広島山岳平和祭」打合せ会報告
- ウ 登山部統合準備委員会打合せについて
- エ 国際委員総会兼第33回海外登山遭難対策研究会の反省
- オ 海外登山懇談会(11/6、国立オリンピック記念青少年総合センター)について
- カ 日中韓技術交流研修会について
- キ ロシアの女性クライミング・フェスティバル案内の件

4. その他の重要事項

(6月13日～7月9日)

[報告]

- (1)第1回加盟団体連絡会議兼ドーピング防止研修会 6月13日(金)
於：ベルサール九段 中川事務局
- (2)26年度国際委員総会兼第33回海外登山遭難対策研究会 6月14日(土)～15日(日) 於：長野県山岳総合センター 神崎会長、八木原副会長、小野寺常務理事、澤田委員長ほか
- (3)「衆議院議員 衛藤征士郎君を囲む会」 6月17日(火) 於：ANAインターコンチネンタルホテル 神崎会長、尾形専務理事
- (4)「広島山岳平和祭」打合せ 6月18日(水) 於：岸記念体育会館 神崎会長、尾形専務理事、小野寺常務理事、石倉委員長
- (5)第41回山の自然と文化を語る会 6月19日(木) 於：ニュー新ホール 内藤監事、石倉委員長
- (6)長崎国体・大村市国体推進課来局 6月19日(木) 於：日山協事務局 橋本真人係長他
- (7)日本体育協会平成26年度評議員会 6月25日(水) 於：品川プリンスホテル 神崎会長
- (8)スポーツ安全協会評議員会 6月26日(木) 於：東海大校友会館 「朝日の間」 神崎会長
- (9)第一東京弁護士会総合法律研究所

- スポーツ法研究部会・合田雄治郎弁護士とのヒアリング 6月26日(木)
於：岸記念体育会館 尾形専務理事、北山委員長
- (10)山岳団体自然環境連絡会 6月27日(金) 於：労山事務所 石倉委員長、徳永・松隈副委員長
- (11)好山会創立60周年記念祝賀会 6月28日(土) 於：サンパール荒川 八木原・佐藤副会長、尾形専務理事、小野寺・瀧本常務理事
- (12)平成26年度遭難対策委員総会兼研修会 6月28日(土)～29日(日) 於：あしがら勤労者いこいの村 神崎会長、八木原副会長、西内常務理事ほか
- (13)平成26年度全国山岳遭難対策協議会 7月4日(金) 於：文科省講堂 神崎会長、尾形専務理事、西内常務理事、中川事務局
- (14)平成26年度谷川岳山開き(安全祈願祭) 7月6日(日) 於：土合霊園地 神崎会長、八木原副会長
- (15)日体協競技団体評議員連合会総会 7月8日(火) 於：岸記念体育会館 尾形専務理事
- (16)平成26年度スポーツ拠点づくり推進事業市町村連絡会 7月8日(火) 於：ホテルアジュール竹芝 尾形専務理事
- (17)2015年世界アンチ・ドーピング規程ワークショップ 7月10日(木) 於：ベルサール六本木 西嶋常任委員

編集後記

7月後半、57回を数える市民登山で富士山に登った。世界文化遺産に登録後2年目、登山道は以前より整備されたようだが、ツアー客と外国人登山者が増え、登山道のゴミが目立つ。トイレの処理能力から見ると登山者が10万人程オーバー(昨シーズン30万人)と言われている。2016年ユネスコに保存状況報告書提出の義務がある。世界遺産としての価値を保存し、未来へ伝えていくための適切な対策がいまだ見えていないと思う。

(広報担当 水島彰治)

登山月報 第545号

定 価 110円(送料別)
 予約年間 1,300円(送料共)
 昭和45年12月12日
 第三種郵便物認可
 (毎月1回15日発行)
 発行日 平成26年8月15日
 発行者 東京都渋谷区神南1-1-1
 岸記念体育会館内
 公益社団法人日本山岳協会
 電 話 03-3481-2396
 F A X 03-3481-2395

NPO法人 北丹沢山岳センター

事務局 〒252-0184 神奈川県相模原市緑区小淵1545-1
 TEL 042-687-4011 FAX 042-687-3980
 E-MAIL kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp

蛭ヶ岳山荘 TEL:090-2252-3203(衛星電話)

神の川ヒュッテ TEL:042-787-2276

和時「時の茶屋」 TEL:042-687-2882

理事長・代表 杉本憲昭

NPO法人 北丹沢山岳センター

事務局 〒252-0184 神奈川県相模原市緑区小淵1545-1
 TEL 042-687-4011 FAX 042-687-3980
 E-MAIL kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp

- 北丹沢12時間山岳耐久レース実行委員会
- 陣馬山トレイルレース実行委員会
- 八重山トレイルレース実行委員会
- 東丹沢宮ヶ瀬トレイルレース実行委員会

大会々長 杉本憲昭


2014アジア山岳連盟 (UAAA) 創立20周年記念総会
UAAA GENERAL ASSEMBLY & 20 Anniversary Ceremony



広島山岳平和祭

2014年11月22日 (土) ~ 11月26日 (水)

主催 (公社) 日本山岳協会 / 主管 (一社) 広島県山岳連盟

2014年11月22日 (土)	11月23日 (日)	11月24日 (月)	11月25日 (火)	11月26日 (水)
UAAA/UJAA 出席者来日 レジストレーション (受付) アステール プラザ	「広島山岳平和祭」 式典/記念行事/祝賀会 広島平和記念公園周辺	UAAA/UJAA 弥山ハイク 宮島・厳島神社参拝	UAAA総会 アステール プラザ	UAAA/UJAA 出席者離日 解散
	朝食/各ホテル	朝食/各ホテル	朝食/各ホテル	朝食/各ホテル
	9:00~10:00 (当日参加) 10:00~12:00 平和・安全・安心 祈願 「広島山岳平和祭」 平和記念公園・慰霊碑周辺	8:30~15:00 弥山(535m)ハイキング 宮島・厳島神社参拝 (各コース別)	9:00~12:00 UAAA 総会 アステール プラザ 大会議室 A B	朝食後解散
The A-bomb Dome	12:00~13:30 昼食 (文化交流会館他)	昼食は「山のおべんとう」	12:00~13:30 昼食 (文化交流会館他)	
13:00~14:00 国際受付 アステール プラザ (4階) 14:00~17:00 各団体別自然保護集会 ・日山協: 神田山荘 ・JAC: 鶴学園工大広島 ・HAT-J: アステールプラザ	13:30~16:30 UAAA創立20周年記念行事 国際シンポジウム 「登山と山岳自然保護」 アステール プラザ中ホール	午後 下山後 解散 (宿泊場所までバス輸送)	13:30~16:30 UAAA 総会 大会議室 A B オプション ②山口県秋芳洞と 秋吉台ハイキング	 Miyagima Itukushima JINJYA
18:30~20:30 交流懇親夕食会 文化交流会館 (3階)	18:30~21:00 UAAA創立20周年記念祝賀会 リーガロイヤルホテル広島	オプション ①銀河ディナークルーズ	18:30~20:30 さよならパーティ 文化交流会館 フォーシーズン	JMA
宿泊: 各施設	宿泊: 各施設	宿泊: 各施設	宿泊: 各施設	

◎参加申込及びお問合せは、日山協事務局まで。(電話: 03-3481-2396 E-mail: info@jma-sangaku.or.jp)

立ちどまらない保険。

MS&AD

三井住友海上



安心を売る仕事。

嵐の日でも 晴れの日も。
つらいときも うれしいときも。
わたしはあなたを見守っています。

わたしがあなたに
売っているのは「安心」です。

安心できれば 挑戦できます。
だからあなたは
夢に向かって
進みつづけてください。

どんなことが起きても
わたしはあなたの味方です。

MS 私は
agency 三井住友海上の
代理店です。

www.ms-ins.com

あなたの保険は、 安心して登山ができる保険ですか。

救助費用はタダではありません。
山岳保険の加入は登山者のマナーです。

■平成24年山岳遭難の概況

(警察庁生活安全局地域課 平成25年6月13日)

発生件数 **1,988** 件 (前年対比 158 件増)

遭難者数 **2,465** 人 (前年対比 261 人増)

死者・行方不明者 **284** 人 (前年対比 9 人増)

詳しくは → <http://www.sangakukyousai.com>

お問い合わせは

日本山岳協会 山岳共済会

事務委託：日本山岳協会山岳共済事務センター
月～金 10:00～17:00 (土・日・祝日除く)

〒170-0013 東京都豊島区東池袋 3-7-11-707

TEL: 03-5958-3396 FAX: 03-5958-3397

E-mail: sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp

U R L : <http://sangakukyousai.com>